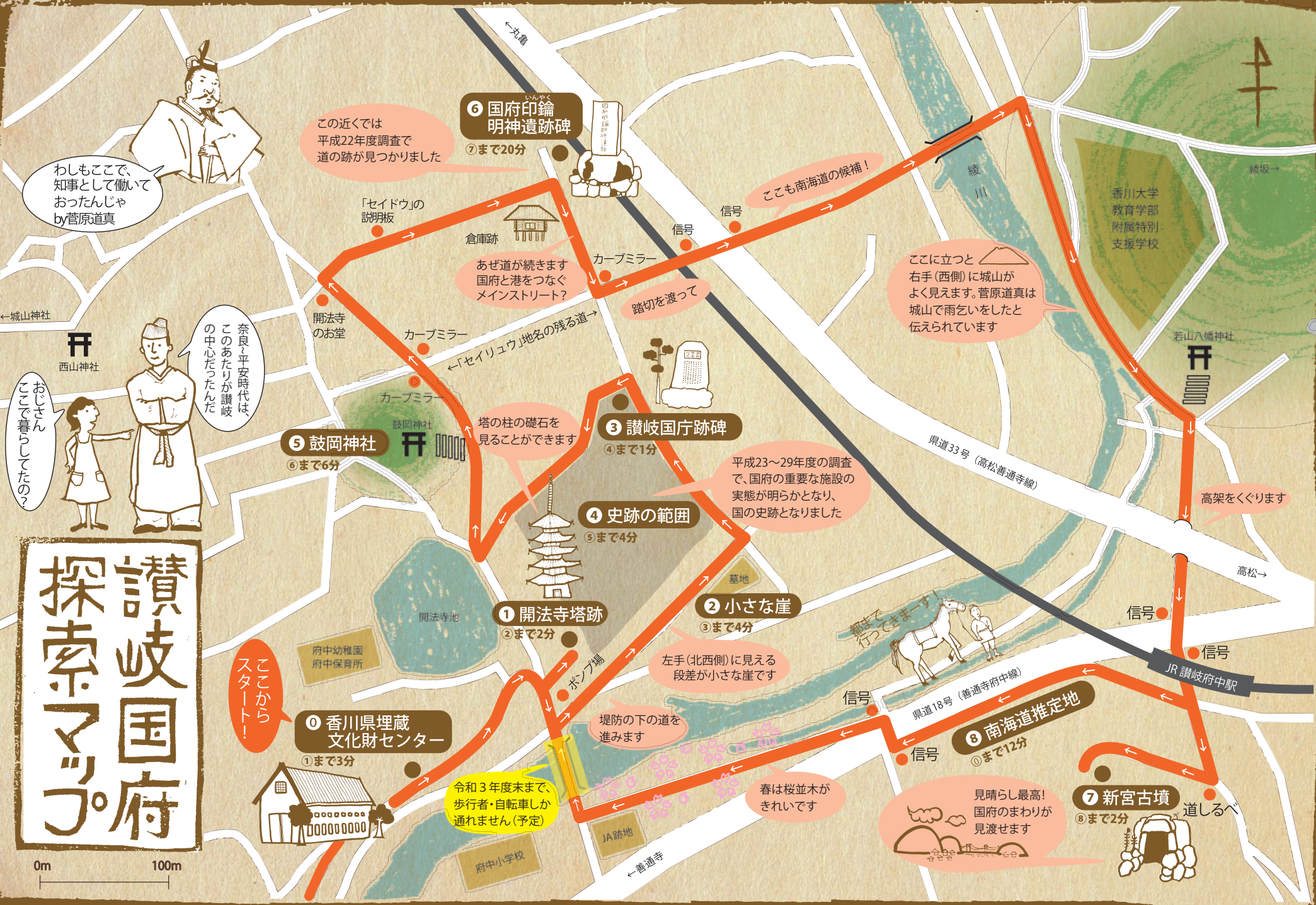


# 讃岐国府探索マップ



わしもここで、知事として働いておったんじゃ  
by菅原道真

おじさん  
ここで暮らしてたの？

奈良と平安時代は  
このあたりが讃岐  
の中心だったんだ

この近くでは  
平成22年度調査で  
道の跡が見つかりました

**6 国府印鑰  
明神遺跡碑**  
⑦まで20分

「セイドウ」の  
説明板

倉庫跡

カーブミラー

あぜ道が続きます  
国府と港をつなぐ  
メインストリート？

踏切を渡って

ここに立つと  
右手(西側)に城山が  
よく見えます。菅原道真は  
城山で雨乞いをしたと  
伝えられています

ここも南海道の候補！

**5 鼓岡神社**  
⑥まで6分

塔の柱の礎石を  
見ることができます

**3 讃岐国庁跡碑**  
④まで1分

平成23~29年度の調査  
で、国府の重要な施設の  
実態が明らかとなり、  
国の史跡となりました

**4 史跡の範囲**  
⑤まで4分

**2 小さな崖**  
③まで4分

左手(北西側)に見える  
段差が小さな崖です

**1 開法寺塔跡**  
②まで2分

ここから  
スタート！

**0 香川県埋蔵  
文化財センター**  
①まで3分

令和3年度末まで、  
歩行者・自転車しか  
通れません(予定)

堤防の下の道を  
進みます

**8 南海道推定地**  
⑧まで12分

春は桜並木が  
きれいです

見晴らし最高！  
国府のまわりが  
見渡せます

**7 新宮古墳**  
⑦まで2分

道しるべ

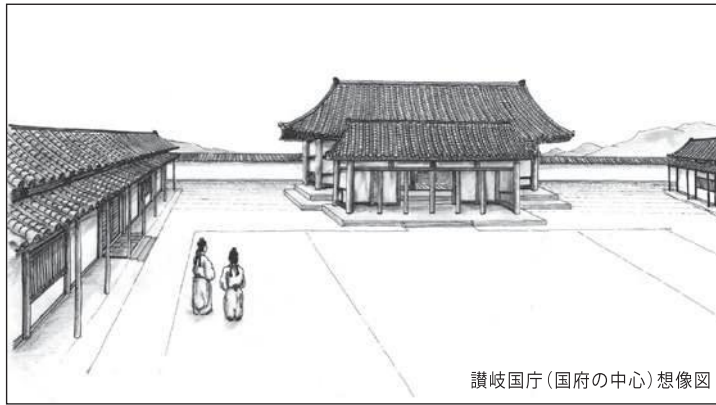
0m 100m

さぬきこくふ  
讃岐国府とは

国府とは、奈良時代ころ全国の国ごとに置かれた役所のことです。香川県は、  
おおむね当時の讃岐国にあたり、国府は讃岐国府と呼ばれています。讃岐国府は南海道なんかいどう（古代の官道）や瀬戸内海に近い現在の坂出市府中町につくられました。

国府では中央政府から派遣された役人が国司こくしとして政治を行っていました。国司とは現在の知事のような立場の人です。讃岐国の国司には学問の神様として有名な菅原道真すがわらのみちざねも名を連ねています。

平安時代の終わりごろから各地の国府は縮小し、やがて廃れていきました。このため、讃岐国府のあった場所も忘れ去られてしまいましたが、平成 23 ～ 29 年度に行った調査により、国府の施設を発見することができ、讃岐国府の場所が特定され、令和 2 年には国の史跡に指定されました。



讃岐国庁（国府の中心）想像図

越智広二氏作画



発行／香川県埋蔵文化財センター  
〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4  
TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249  
URL <https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>

県指定史跡

① 開法寺塔跡



塔の柱を支えていた17個の礎石が残っています。菅原道真の漢詩集には、開法寺が国府の役所の西にある、と記されています。このため、開法寺は讃岐国府の場所を探す手がかりとして重要と考えられてきました。

② 小さな崖



綾川に沿って小さな崖があります。現在の堤防が築かれるまで崖の下は綾川の増水によって水没する場所でした。発掘調査から崖の下は、中世には農地として使われ、古代の終わり頃には、崖となっていたと考えられます。

③ 讃岐国庁跡碑



1925年（大正14）、讃岐国府の中心地と推定された場所に建てられた碑です。当時は主に地名による研究が行われ、讃岐国府の場所が推定されました。碑の漢詩は著名な漢学者・牧野謙次郎によるものです。

④ 史跡の範囲



讃岐国府跡探索事業（H23～29）によって、国府の重要な施設の内容が明らかとなり、令和2年に国の史跡に指定されました。史跡となった範囲では、古代の建物などの多くの重要な遺構が見つかっています。

⑤ 鼓岡神社



保元の乱（1156年）で敗れ讃岐へ配流された崇徳上皇が、この地に設けられた木の丸殿で、崩御までの6年余りの間を過ごしたとされています。

⑥ 国府印鑰明神遺跡碑



印鑰とは印（判）と鍵のことで、いずれも国府を運営・管理するのに必要なものです。1916年（大正5）、漢学者・赤松景福らによって印鑰にちなむ地名がある場所に建てられました。

⑦ 新宮古墳



古墳時代終わりごろに築かれた、横穴式石室をもつ方墳。石室の入口からは綾川下流域の平野から瀬戸内海までを見渡すことができます。それらは古墳に葬られた人の権力基盤の範囲を示しているのかもしれませんが。

⑧ 南海道推定地



奈良時代ころ、都と各地を結ぶ道路（官道）がつくられました。地方での官道の幅は9～12mとされています。国府の多くは官道の近くにあり、讃岐国でも国府の近くを南海道と呼ばれる官道が通っていました。